



林業とくしま

「木づかい」は誰でもできるエコ活動
みんなで防ごう地球温暖化!



中千木材(有) 千里献一氏が平成21年度徳島県表彰を受賞!

もくじ (林業とくしま289号)

◇私の森づくり…………… 2	◇森林林業技術情報……………11
・徳島市 尾崎州宏さん	・森林林業研究所の業務概要について
◇がんばる若手リーダー…………… 3	・平成21年度 林業技術研修について
・海部郡美波町 山本友和さん	◇県産材の需要拡大に向けて!……………13
◇現地だより…………… 4	・「森を木づかう住宅資金貸付制度」
・東部圏区域 (吉野川)	について
・南部圏区域 (那賀)	◇県林業改良普及協会だより……………14
・西部圏区域 (三好)	◇県林業研究グループ連絡協議会だより
◇林政の窓…………… 6	……………14
・平成21年度 森林・林業に関する主要	◇阿波だぬき……………15
事業の概要	◇広 告……………16
◇特集…………… 8	
・平成21年度 林業普及指導事業について	

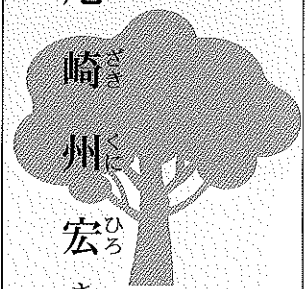


No. **289**

2009・6

「私の森づくり」

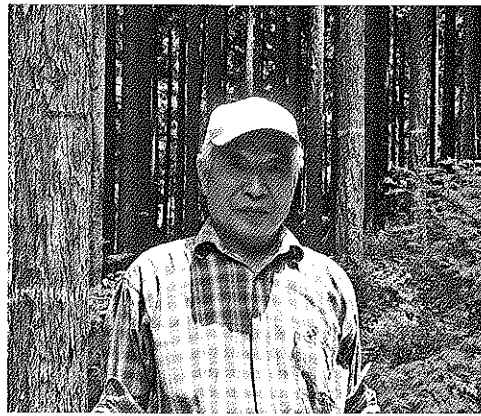
徳島市尾崎州宏さん



大分県日田市中津江村で一ヶ月間、日田林業を体験し、そこで「挿し木林業」を学んだそうです。

スギ天絞丸太の生産を始めたきっかけは、昭和四十五年の大阪万博の年に、京都北山で実際に天絞丸太を見たときだそうです。「初めて『絞』を見た時は、まるで玄翁（かなづちの一種）で頭を叩かれたみたいにしヨックを受けた。」と語るほど、天絞丸太に魅せられたといいます。以後、「三五」、「中源」、「雲外」など多くの品種を導入し、現在では、約一万本ほどの天絞スギを植栽するに至っています。

一方で、スギの優良品種の改良にも取り組まれています。尾崎さんの所有林地は、町内でも風が強く吹き付ける場所で、早く成長する品種では風害に遭い易く、しかも枝の太い個体が出来易いことから、ゆっくりと成長し、かつ枝の細い品種を作ることを理想に、京都北山スギの挿し木品種である「シロスギ」と「シバハラ」を交配させるなど、独自に様々な品種の苗木づくりを行ってきました。



尾崎州宏さん

今回は神山町で農林業を営まれている尾崎州宏さんをご紹介します。尾崎さんは、昭和八年生まれの七十六歳、昭和二十年代後半頃から林業を始められ、これまでスギ天然絞丸太の生産や人工交配によるスギの優良品種改良を独自に行うなど、林木育種を基点に据えた林業に熱心に取り組んでこられました。

昭和三十九年に林業研修として、

導入当時とは時代が変わり、絞丸太の需要も少なくなってきました。今後は間伐を続け、大径木生産へと施業転換を行い、将来の内装材での利用を期待しているそうです。



人工交配により生産した優良苗木



天絞スギの植林地

最近では、ケヤキの玉杵材にも着目しており、現在、玉杵の出るケヤキ候補木の養成に熱心に取り組んでいます。

「林業は今是不況の時。しかし、こんな時にこそ一生懸命がんならな」といけない。」と熱く語る尾崎さん。「今の取組は全て後生に託すためにやっているんです。」と言われますが、「理想の品種づくりと山づくり」をこれからも現役として頑張っていたきたいと思っています。そして益々の活躍を心から期待いたします。

東部農林水産局（徳島）

林業飛躍プロジェクト担当

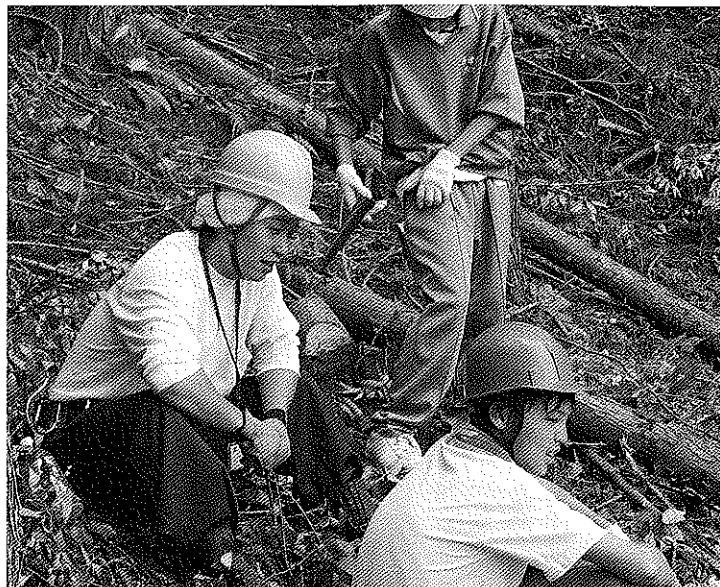
係長 島村雄三

がんばる若手リーダー

徳島県青年林業士 やま もと とも かず
山 本 友 和 さん

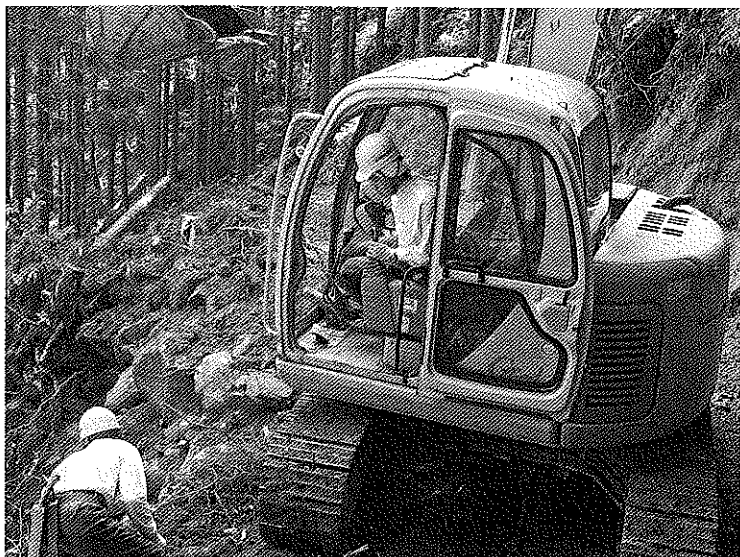
山本友和（やまもとともかず）氏は、現在、海部森林組合で高性能林業機械のオペレーターとして木材の伐採・搬出や作業道の開設に従事する若手のリーダーで、平成20年度に青年林業士に知事から認定されました。

旧穴喰町の竹ヶ島出身の山本氏は小さな頃から海に親しみ、一時は漁師を目指したほどで、現在も釣りの腕前はプロ級と聞いています。穴喰中学校の「間伐作業とアオリイカ産卵礁づくり体験」では、持ち前の明るさで中学生達の兄貴分のように世話をしていたことを思い出します。



山本友和さん（写真左）

昨年、青年林業士に認定されたことを機に「海部地区林業指導者会」に入会し、指導者として積極的に活動に参加しています。去る6月9日（火）に開催された「南阿波よくばり体験」では神戸市立玉津中学校の生徒80名が参加した『林業間伐体験』の講師も務めました。都会の中学生ですから、中には人の話を聞かない子もいましたが、彼の周りにはいつの間にか中学生が集まり、手ノコでの伐採に汗を流していました。山本氏には、人を引きつける不思議な「力」があるようです。



去る6月12日（金）に、海部森林組合の作業道開設現場に山本氏を訪れました。先輩の指導を受けながら作業する姿は真剣そのもの。素直な姿勢が誰からも愛されているのでしょうか。様々な技術を受け継ぎながら自らの考えも大切に、今後ますます活躍することを期待しています。

南部総合県民局農林水産部（美波）
林務担当 主査兼係長 井坂利章

現地だより

林業普及現場からの情報コーナー

【東部圏区域（吉野川指導区）】 高性能林業機械 2セット目導入

吉野川管内では、阿波麻植森林組合が平成十七年度に高性能林業機械を一セット導入し、翌年は間伐材の搬出量が大幅に増大しました。平成十九年度は降雪などの天候不順により面積、搬出量ともに落ち込みましたが、林業飛躍プロジェクトの目標達成のため、同組合は平成二十一年二月に二セット目を導入し、確実に搬出材積を伸ばしています。（表一）

二セット目の機械は、先に導入した機械同様、狭い作業路上で集材・造材し、林道端まで運搬しますが改良点や新機能が追加されています。中でも、集材機械のスイングヤーダは水平距離八・五mまで腕が伸び掴んで集材できる機能が追加され、道上下の伐倒木を掴んで上荷・下荷できるなど玉掛け作業なしで安全に作業が出来ます。その他、山土場での仕分けやはい積、作業路が入った林

（表一）管内の間伐面積及び間伐材搬出量の推移

年度	間伐面積 (ha)	左の内、搬出間伐面積 (ha)	搬出材積 (m ³)	左の内、高性能林業機械分 (m ³)
H16	214	38	1,950	0
H17	200	44	2,261	700
H18	221	55	3,611	1,731
H19	143	29	2,737	1,190
H20見込み	159	60	4,550	2,509

地での地拵え作業など多様な場面で役立つものと期待されます。

現在、森林組合では、二セットの機械を効率的に運用するため、搬出間伐を中心とした間伐推進団地の拡大に取り組んでいます。具体的には、既存団地や事業予定地周辺の森林所有者を対象に事業費用や将来の山づくりなどを提案し、団地化を進めて

いく計画です。そのため森林組合では、若手職員が中心となって所有者向けの森林プラン（提案書）づくりの勉強にも取り組んでい

るところです。今秋には、実際に提案したプランが間伐事業に結びつくよう期待しています。

ポイント

- ・平成十七年度に阿波麻植森林組合が高性能林業機械を一セット導入
- ・二十年度の間伐材搬出量は、三点セット約二五〇〇m³、架線等一八九〇m³、合計四三九〇m³
- ・県下のスギヒノキ人工林面積は一七・二〇〇haで九齢級をピークである。
- ・吉野川管内のは約五、九〇〇ha、一〇齢級をピークに搬出間伐可能な面積は六割を占める。
- ・更なる搬出間伐の推進のため、二



セット目を導入した。

東部農林水産局（吉野川）
林業飛躍プロジェクト担当
技術主任 平島聡一郎

【南部圏区域（那賀指導区）】 「第3回 ウッドケミカル産業 創造シンポジウム」が開かれる

去る五月二十五日と二十六日に、那賀町相生体育館において、町民を対象とした「第3回ウッドケミカル産業創造シンポジウム」が開催されました。

これは那賀町が進めている「那賀町バイオマスタウン構想」の事業化に向けて、この構想の内容や意義などを地元にも広く知ってもらうために那賀町などが主催して開催されたものです。

那賀町バイオマスタウン構想とは、町内に有り余る森林資源を利用して、バイオ液体燃料（BTL）や、プラスチックなどの様々な工業製品を作る原料となる素材を作り、広く販売していくというものです。

初日は第一部で基調講演が行われ、京都大学名誉教授の若田譲氏が「持続可能・地方分散型社会構築の実践」という演題で、「石油資源は枯渇しかかっており、早急に地方分散型の持続可能な代替エネルギーの構築を

図らなければならぬ」という内容のお話を頂きました。

また、三重大学大学院教授の船岡正光氏からは「植物資源連続変換システムの実証化に向けた取り組み」という演題で、那賀町のバイオマスタウンに設置される実証プラントについての説明がありました。

第二部では関係者を集めたパネル討論が行われ、木質バイオマスの可能性や那賀町の取り組みについて話し合われました。

翌二十一日は、町内の小学生を集めて「環境学習」がおこなわれ、町教育長の挨拶のあと、当県民局の吉永技術課長補佐が、

「お山を大事に守ろう!!」という題で、町内の山の状態や、森林の果たす役割などを分かりやすく説明しました。



その後、木沢小学校児童の「エネルギー実践」についての事例発表と「地球温暖化」についての実験教室があり、どの事例も興味深そうに見入っていました。この子たちが将来も町内に残り、林業の発展に貢献してくれたらと願っています。

南部総合県民局農林水産部（那賀）
林業振興担当 主査兼係長 藤友 毅

【西部圏区域（三好指導区）】 流域間連携による地域林業の活性化

西部総合県民局（三好）では、平成十八年度から吉野川（三好）流域林業活性化センターを核に、木材需要拡大と活性化センターの再編を目指して「徳島すぎと香川ひのき」をキーワードに香川県内において木材利用のPRを推進しています。

これまで、住宅相談窓口を活動の中心として「徳島すぎと香川ひのき」の住宅造りを進めており、成果としては、十九・二十年度での住宅建築成約戸数二戸、協議中一戸となっております。また、香川県内の大手建築会社への部材の納入が可能となっております。

こうした取り組みが進むにつれ、様々な課題が明らかになりましたが、それぞれ解決してきています。

まず、生産・流通体制が不備なため安定供給が難しかった「香川ひのき」については、香川県側の生産体制（高性能機械の導入）が整えられ、吉野川（三好）流域林業活性化センターの働き掛けによる生産講習会等を催すとともに、三好木材センターが「香川ひのき」コーナーを設け、更に搬出協定を結ぶことで、「香川ひのき」の安定供給を図っています。これにより、三好地域の製材業者に「香川ひのき」が安定供給され、香

川県で「徳島すぎと香川ひのき」の住宅が建てられることとなり、PR効果が低く、施主に情報が十分伝わらなかつたことについて、昨年度末に「徳島すぎ・香川ひのき」を使用し

たモデル住宅」が栗林公園の北に完成し、住宅相談窓口との相乗効果によるPR効果が拡大が期待できること、もう一つの大きな成果として、サンポート高松内に在る「香川プラザ」で徳島すぎの常設展示が可能と成っていることです。

今後は吉野川（三好）流域活性化センター、香川県・香川流域森林林業活性化センターと連携を大切にすることで「徳島すぎと香川ひのき」の需要拡大を図っていきます。

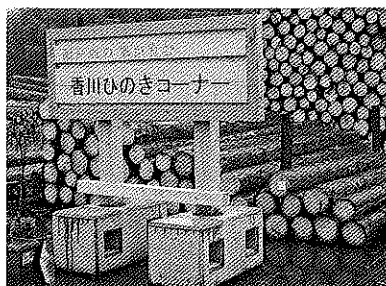
西部総合県民局農林水産部（三好）
林業振興担当 主査兼係長 華岡孝彰



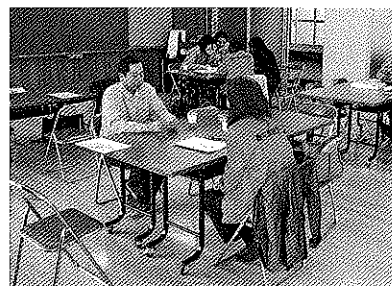
モデル住宅での説明



サンポート高松（香川プラザ）展示状況



三好木材センター内の香川ひのきコーナー



住宅相談会

平成21年度 森林・林業に関する主要事業の概要

林業振興課 森林企画担当 技術課長補佐 金井 仁志

1 平成21年度当初予算の概要

地方の厳しい財政状況のもと、平成21年度の県当初予算は、昨年度から112億23百万円減少（2.5%減）の4,422億58百万円となっています。

しかしながら、昨年10月に制定した「県食料・農林水産業・農山漁村基本条例」を受け、「条例元年」にふさわしい積極的な予算編成を行った結果、「農林水産部」の予算は315億25百万円と1.6%の増。このうち林業関係予算は、農林水産部予算の33.8%を占め、114億7百万円（0.7%増）となっています。

(1) 施策の重点事項

県政の運営指針である「オンリーワン徳島行動計画（第二幕）」に盛り込まれた「林業飛躍プロジェクトの推進」と「未来を守るとくしま森林づくり」をはじめ、昨年からの第一約束期間が始まった京都議定書に基づく「森林吸収源対策」を着実に展開します。

(2) 主要新規事業

①とくしま協働の森づくり事業

カーボン・オフセットの仕組みを森林分野においてモデル的に導入するため、県民や企業に対し制度の普及啓発を行うなど、森林整備活動への協働体制を構築する。

予算額 8,000千円

②地域中核木材産業連携事業

プレカット工場への県産材の安定供給を図るため、地域の中核となる製材業者と周囲の小規模製材業者等が連携を図り、地域全体の製品生産の再編・分業等を進めることにより競争力を高め、生産流通体制の強化を推進する。

予算額 8,000千円

③間伐空間高度利用モデル事業

間伐地を活用した地域の特産林産物等の林間栽培をモデル的に実施し、林業と特産林産物等を組み合わせた複合経営を実証することにより、林業経営の安定を図る。

予算額 1,000千円

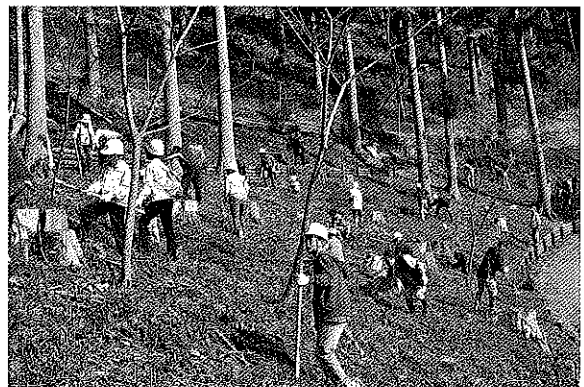
④条件不利森林公的整備緊急特別対策事業

森林の立地条件等が不利なため、所有者による自主的な整備が進まず放置された森林について、間伐、作業路網の整備など、森林管理を推進する。

予算額 250,000千円

⑤新間伐システム新規参入支援事業

林業従事者が減少する中、建設業等他産業からの円滑な参入促進と即戦力としての人材を育成するため、森林組合等との連携による、より実践的な経営、現場管理技術の習得に向けた研修を実施する。



企業による森づくり活動

予算額 10,000千円

⑥林業事業体リスクアセスメント導入促進事業

他産業に比べ労働災害発生率の高い林業の安全性を高めるため、安全作業マニュアルの作成やリスクアセスメント手法を用いた安全対策の導入を促進するなどして、労働災害の撲滅を図る。

予算額 1,800千円



建設業を対象とした作業道研修

2 平成21年度5月補正予算の概要

百年に一度とも言われる経済危機に対応するため、国の補正予算（経済危機対策）にも迅速に呼応し、補正予算を編成いたしました。

森林・林業関係では、林業・木材産業の振興や公共事業による中山間地域の経済・雇用の拡大を図るため、補正予算額は75億14百万円と、当初予算の65.9%に相当する大規模なものとなりました。

(1) 主な施策

①森林整備加速化・林業飛躍事業

間伐等の森林整備の加速化と、間伐材等の森林資源を活用した林業・木材産業等の飛躍を図るために「林業飛躍基金」を造成し、平成21年度から23年度までの3ヶ年、間伐から木材・バイオマス利用までの対策を総合的に展開する。

予算額 5,500,000千円

②林道事業（公共）

山村地域の定住基盤や森林整備の基礎となる幹線林道の整備のほか、県単独事業による林道路面の整備等を実施する。

予算額 1,263,414千円

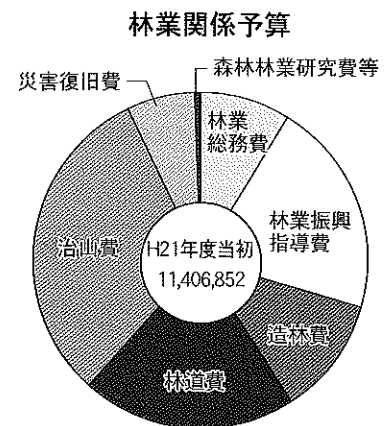
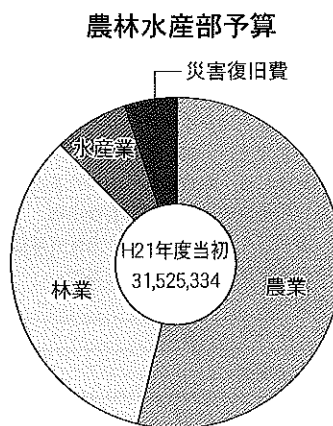
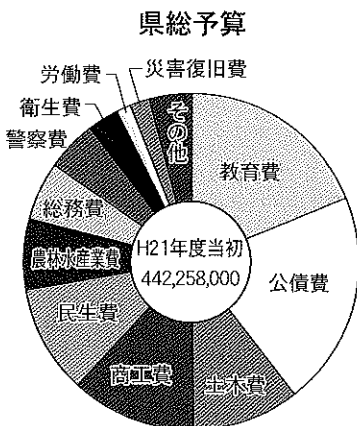
③治山事業（公共）

山地災害から県民の生命・財産を守り、周辺流域の保全を図るため、治山ダム等の計画的な整備のほか、県単独事業による既存施設の機能強化等を実施する。

予算額 750,610千円

3 おわりに

今年度の「当初予算」には、例年になく多くの新規事業を盛り込むとともに、「5月補正予算」も、過去を見ても最大級の規模となっています。このため、今後は、これらの施策の情報を関係者の皆様にいち早くお示しし、早期の事業実施に努めてまいります。



平成21年度 林業普及指導事業について

林業振興課
普及調整・森づくり担当
技師 塚 俊 彰

2 平成二十一年度の重点課題

平成二十一年度は重点課題として、次の事項の普及を推進します。

1 はじめに

平成二十一年度の林業普及指導事業は、東部農林水産局（東部圏域区）、南部総合県民局（南部圏域区）及び西部総合県民局（西部圏域区）、及び森林林業研究所（広域区）に配置された林業普及指導員二十五名が、調査研究や高度な技術の普及、地域のコーディネート活動等を通じて、各地域もしくは県下全域的な重点課題の解決に務めています。

そして、普及指導活動を通じて、林業飛躍プロジェクトの推進、基幹となる林業技術者の育成に資することにあります。

表 平成21年度 林業普及重点課題一覧表

普及区	重点課題	普及事項
広域区 (森林研)	森林管理手法の近代化支援	「システム収穫表」の普及と森林の団地化推進に関する支援
		システム収穫表による団地設定マニュアル作成
	林業技術者の養成および作業技術の向上支援	森林認証の普及
		各種林業技術研修の実施
		計画的な技術者育成システムの構築
	木材流通情報の提供と森林・木材の有効利用の指導	作業技術の高度化に関する支援
木材流通における現状把握と分析		
木質バイオマスの有効利用		
東部 (徳島)	搬出間伐の効率化	木材乾燥技術の普及
		間伐空間の高度利用技術の普及
		実行性の高い事業計画の作成及び事業実施の支援
バイオマス燃料等への地域材の利用拡大	見積設計の実施と結果分析（施業提案能力の向上）	
	新間伐システムの効率的な実施のための技術指導	
東部 (吉野川)	間伐推進団地の拡大の取組	低質材のバイオマス燃料等への供給体制の整備
		木質バイオマスの利用拡大
南部 (美波)	南部フォレストバンク構想の推進	木質バイオマスの利用拡大
		木質バイオマスの利用拡大
		木質バイオマスの利用拡大
	「県南の海を育てる森づくり活動」の推進	既設団地の再編と新規団地の開拓
		森林施業プランナーの人材育成
		地域材需要拡大のための将来計画（マスタープラン）の作成
南部 (那賀)	実行性のある搬出間伐団地づくりの支援	森林整備・サポートセンターの設立及び構成メンバーの能力向上研修会の開催
		森林所有者への働きかけ及び現地森林調査等、間伐等の実演会の開催
	搬出間伐推進のための技術者の育成	情報の収集及び発信
		連絡会議の開催
新規参入者を対象とした人づくり	未利用木質資源を活用した産卵礁等の開発	
	海山連携による森づくり活動の推進	
西部 (美馬)	SGEC認証の普及啓発による認証材の流通促進	見積書、精算書などの作成指導（随時）
		システム収穫表の普及指導（随時）
	団地形成と間伐材搬出による林業経営の改善	安全衛生協議会の開催 2回
		作業道開設技術現地指導 6回
地域木製品の需要拡大	経営改善指導	
	林業技術現地指導 6回	
西部 (三好)	団地化の推進	安全衛生協議会の開催 2回
		「緑の循環」吉野川ネットワーク活動の支援
	流域連携を核とした木材需要拡大の推進	SGEC認証取得の推進
		団地化・搬出間伐の推進
	SGEC森林認証材による認証住宅等需要拡大の推進	現場作業員の技術の向上
		搬出経費の低コスト化
ホンシメジ生産技術の現地適用化と三好高校を中核とした技術者養成及び地域振興支援体制の確立	地域木製品のPR活動を支援	
	広葉樹林利用拡大及び「美馬の薪」のブランド化	
既存団地の見直し後、新規団地への移行及び新規設定指導	森林調査及び団地説明会等の運営管理指導	
	徳島すぎ・香川ひのきを使用した木造住宅建設推進	
香川ひのきの安定供給体制への働きかけ	認証材の需要拡大	
	木材コーディネーターの育成	
生産技術の向上支援	地域支援の確立	
	地域支援の確立	

3 間伐空間高度利用モデル事業
 近年、山菜等の自然食材が注目され、産直市でも人気が高まっています。
 そこで、「林業飛躍プロジェクト」などで整備された間伐跡地において

間伐空間高度利用の推進スキーム

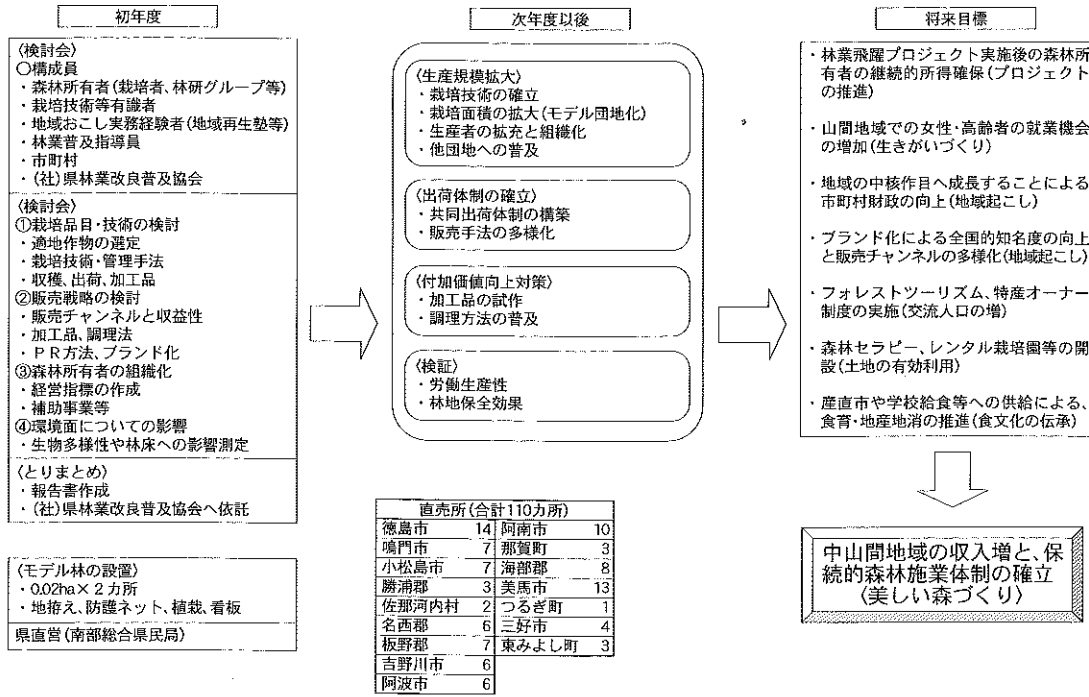


図-1 事業実施方法

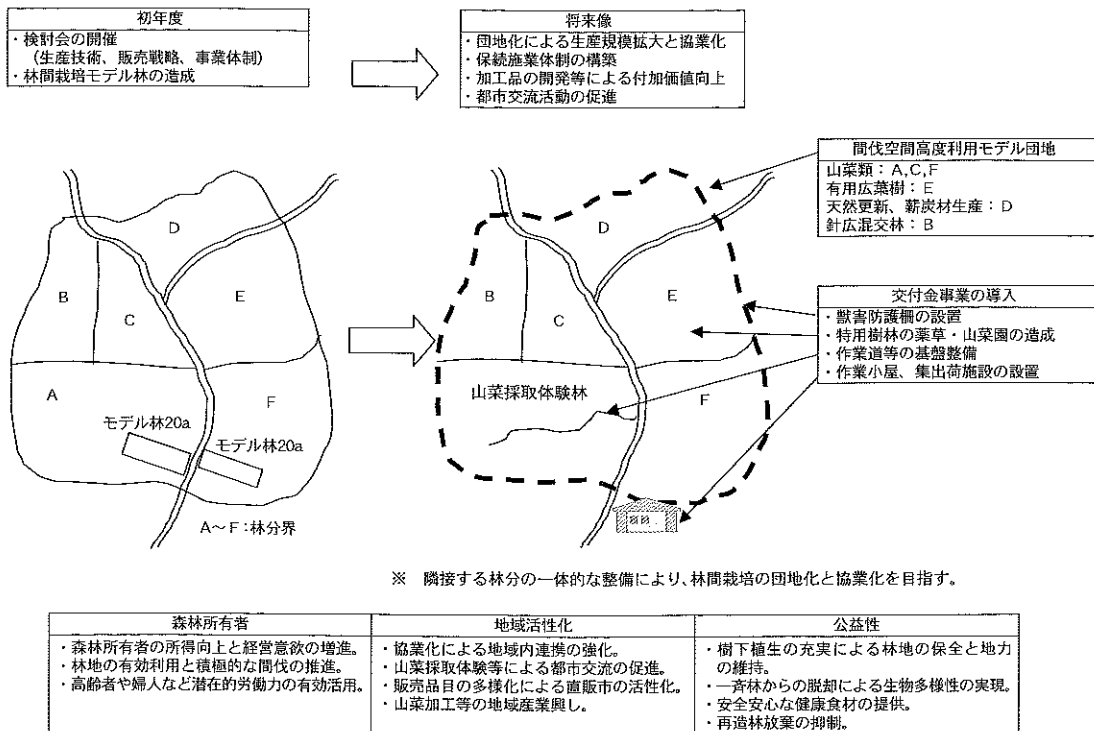


図-2 将来像

山菜等を栽培することにより、林地の保全を図りつつ、有効利用することを目的としたモデル事業を、平成二十一年度から南部、西部、東部各地域で順次、計三カ年の予定で実施します。

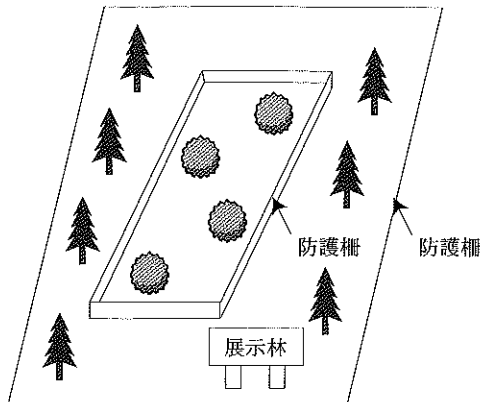
この事業を実施するにあたっては、先ず（社）徳島県林業改良普及協会が地元の森林所有者、栽培技術等に関する有識者、林業普及指導員などで構成される「検討会」を開催しま

す。この「検討会」では、栽培品目や販売戦略、林間栽培に関心がある方を中心とした森林所有者の組織化などについて話し合っていました。更にその検討結果を基に、「モ

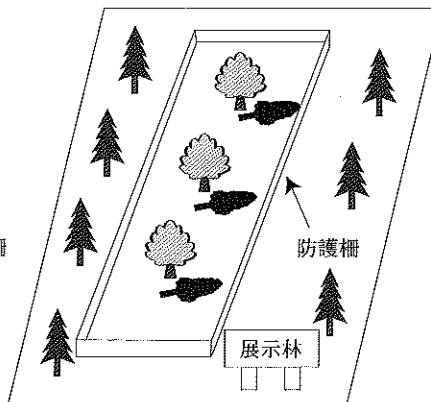
デル林」を設定します。「検討会」や「モデル林の設定」には、各地域の関係者の方々にご協力をいただき、地域に応じた林間栽培の成功事例を作り上げ、そのノウ

ハウを全県的に普及することにより、森林所有者の方々には経営意欲を高めていただくことを目指しています。将来的には、面的にまとまった林間栽培団地の形成と補助事業により、都市交流活動も含めた、総合的な地域活性化を目指したいと考えています。

①栽培型タイプ
(山菜・葉草の植栽)



②育成天然林タイプ
(不要木の除去、有用広葉樹の植栽)



【凡例】

		スギ	列状間伐後の残存木
栽培タイプ		山菜・葉草等	(候補草本類) ハラシ、ウド、モミジガサ、ウワバミソウ、ギボウシ、サラシナショウマ、ミヤマイラクサ、ウルイ、ツリガネニンジン等
育成天然林タイプ		有用広葉樹	育成天然林施業による有用木の植え込み (候補樹種) コシアブラ、クロモジ、ウルシ、タカノツメ、サンショウ、ナンテン、ハリギリ、ヒイラギ、ヒサカキ等
		除去木	育成天然林施業に伴う不要木の伐採除去
		普及啓発看板 (木製)	山の恵みの利活用に向けた普及啓発看板

図-3 モデル林のイメージ

事業実施の流れ、事業実施後の将来像、及び県が造成するモデル林のイメージを図-1から図-3で紹介いたします。

4 おわりに

林業普及指導事業は、林業普及指導員と、指導林家、林業経営士、青年林業士に認定されているの方々、各林業研究グループなど、林業・木材産業関係者のみなさんとともに実施していきますので、ご協力をよろしく願います。

また、林業普及指導員はみなさんにご相談にも対応させていただきますので、林業をされている地域を管轄する東部農林水産局、南部総合県民局及び西部総合県民局に、お気軽にご相談ください。

森林林業研究所の業務概要について

森林林業研究所 次長 市原 光



当研究所は、森林の多面的な機能

の発揮と林業・木材産業の発展を期するため、試験研究部と技術支援部のほか、木材需要開発センターを置き、次の四つの主要業務を推進しています。

- ① 森林・林業・木材利用に関する試験研究・技術開発業務
- ② 林業・木材産業に関する技術指導、技術情報の提供などの普及業務
- ③ 林業者等に対する林業に関する知識・技術及び技能向上に関する研修業務
- ④ 木材需要開発センターの運営を通じた県産木材の需要開発の支援業務

平成二十一年度においては、試験研究部に森林環境、森林生産、木材利用の各担当に研究員を七名配置し、次の四つの重点分野で、十四の試験研究課題に取り組みます。

平成二十一年度試験研究課題

- ① 森林の保全と森林の多面的機能強化のための技術開発
 - 二酸化炭素の森林吸収量算定等のための基礎データの収集と二ホンジカの生態管理等林業防除技術の試験研究を実施する。
 - 森林吸収源インベントリー情報整備事業 (H18～22)
 - (新) 徳島すぎを守り育む獣害対策技術の開発 (H21～23)
 - ② 持続可能な林業経営のための技術開発
 - スギポット大苗生産技術の開発、伐採跡地の適正管理のための調査、スギ人工林の再造林・保育等の省力育林技術の検証、長伐期育林体系の確立等の試験研究を行う。
 - (新) 育林の低コスト化を可能にする革新的な徳島スギ大苗生産技術の開発 (H21～24)
 - ③ 県産木材の用途拡大と高度利用技術の開発
 - 徳島すぎの乾燥技術の確立、木造住宅の部材・構法の研究、木材の化工技術の開発を行う。
 - (新) 木材乾燥時に発生する棧技跡の変色抑制技術の開発 (H21～22)
 - 徳島すぎに適した次世代乾燥技術の確立 (H20～22)
 - 徳島すぎの信頼性向上に関する強度特性の研究 (H20～22)
 - 木製構造物の耐久性の検証と劣化診断法の開発 (H20～22)
 - 徳島すぎ高度難燃化技術の開発 (H19～21)
 - 徳島すぎ高度難燃化技術を活かした建築資材の開発 (H21)
 - ④ 特用林産物の生産技術の高度化
 - 日本一の生産量を誇る菌床シイタケ栽培技術の改良とホンシメジの栽培技術確立のための研究を実施する。
 - 菌床シイタケ害虫ナガマドキノコバエの環境保全型防除技術の開発 (H19～21)
 - ホンシメジの栽培技術の確立 (H19～21)
 - 高機能・高品質シイタケ栽培技術の開発 (H20～22)
 - (新) キノコの光応答メカニズムの解明及び高度利用技術の開発 (H21～25)
- また、技術支援部には、高度専門技術支援担当三名を配置し、林業技術研修の開催のほか、次の三つの普及重点課題に取り組みます。
- ① 林業技術者の養成及び作業技術の向上支援
 - ② 森林管理手法の近代化支援
 - ③ 木材流通情報の提供と森林・木材の有効利用の指導
- 木材需要開発センターの利用方法や研究報告書、優良事例、各種マニュアルについてのお問合せは、森林林業研究所ホームページをご覧ください。
- H P U R L
<http://www.green.pref.tokushima.jp/shinrin/>

徳島県立農林水産総合技術センター 森林林業研究所

平成二十一年度林業技術研修について

森林林業研究所 高度専門技術支援担当

主任班長 仁 木 龍 祐

一 研修の有料化について

平成二十年度から、森林林業研究所で実施している労働安全衛生法で定められた資格取得に係る林業技術研修が有料化されました。(表ー1参照)

研修手数料は、徳島県収入証紙で納めていただきます。

二 各研修の概要

① 林業架線作業主任者研修

架線の理論、関係法令等の室内講習と、架線の架設、集材機運転等の実技講習で、研修修了者は、「架線作業主任者免許」を申請できます。

なお、この研修を受講するには、二年以上の実務経験が必要です。

② 林内作業車集材作業安全教育

林内作業車の理論と、運転及び集材作業の実技講習です。フォーワー

ダを使用した新間伐システムの従事者には、是非受講していただきたい研修です。

③ 機械集材装置運転特別教育

機械集材装置の理論に関する室内講習と、集材機の運転等の実技講習となっております。

④ 車両系建設機械(整地・運搬・積込用及び掘削用)運転技能講習

車両系建設機械(バックホウ・ブルドーザー・トラクタシヨベル等)の理論と実技の講習です。重量が3t以上のバックホウ等を運転することができます。

⑤ フォークリフト運転技能講習

フォークリフトの理論例に関する室内講習と走行及び操作に関する実技講習となっております。この資格は、積み荷の最大荷重が1t以上のフォークリフトを運転する作業に必要です。

⑥ 玉掛技能講習

クレーン等の理論に関する室内講習と、玉掛け作業に関する実技講習となっております。吊り上げ荷重が1t以上のクレーン等の玉掛け作業従事者に必須の講習です。

⑦ 小型移動式クレーン運転技能講習

小型移動式クレーンの理論と実技講習となっております。この資格は、吊り上げ荷重が1t以上5t未満の小型移動式クレーンを運転する作業に必要です。

⑧ はい作業主任者技能講習

はい、はい付け作業、はい崩し作業及び関係法例等に関する室内講習となっております。高さ2m以上のはい作業には原則として「はい作業主任者」を選任する必要があります。なお、この研修を受講するには、三年以上の実務経験が必要です。

⑨ 森林林業基本講習

今年度から始まった研修で、新たに林業に就業するために必要な森林林業に関する基礎知識等を修得します。

表ー1 林業技術研修一覧表 (一部実施済)

研修区分	日 程	研修手数料
林業架線作業主任者研修	平成21年5月13日～15日・5月19日～22日・6月2日～5日・6月10日～6月12日	17,000円
林内作業車集材作業安全教育	平成21年6月25日	2,000円
機械集材装置運転特別教育	第1回：平成21年7月9日～10日	3,000円
	第2回：平成21年11月5日～6日	
車両系建設機械(整地・運搬・積込用及び掘削用)運転技能講習	平成21年9月3日～4日・9月8日～11日	13,000円
フォークリフト運転技能講習	平成21年9月24日～25日・9月29日～10月2日	8,000円
玉掛け技能講習	平成21年10月21日～22日・10月28日～29日	9,000円
小型移動式クレーン運転技能講習	平成21年11月18日～20日	5,000円
はい作業主任者技能講習	平成21年1月21日～22日	2,000円
森林林業基本講習	平成21年4月23日～24日	1,000円

三 受講の申込方法等

林業技術研修の受講を希望される方は、受講希望調書を提出してください。受講希望調書は、当研究所のほか、東部農林水産局及び各総合県民局で入手できます。

県産材の需要拡大に向けて!

「森を木づかう住宅資金貸付制度」について

林業振興課 木材生産流通担当 主事 田 中 慎 一

徳島県内で生産された木材で住宅を建てることは、伐採から植林までの林業生産活動を促すとともに、森林が持つ水源のかん養や、県土を災害から守るなどの働きを十分に発揮させることにつながります。

また、木材には二酸化炭素を貯蔵する役割があることから、住宅部材として利用割合を高めることが、地球温暖化の防止にも一役買うこととなります。

以上のことから、徳島県では県民の皆様にも県産の認証木材を利用した住宅を積極的に建てていただくために「森を木づかう住宅資金貸付制度」を実施しておりますので紹介します。

1 対象となる住宅

(1) 新築、建売の場合（次の要件のいずれかを満たすこと。）

ア 認証木材を梁・桁に100%使用する住宅。

イ 認証木材の使用割合が全体の50%以上の住宅。

(2) リフォーム、増改築の場合

認証木材の使用割合が全体の50%以上の木質化リフォーム又は増改築。



2 貸付を受けられる方（次の要件を全て満たす方です。）

(1) 県内で自ら居住するための住宅を建設、リフォームされる方。

(2) 県内に本店の所在する業者によって住宅を建築される方。

(3) 徳島県勤労者住宅建設資金を併用しない方。

3 貸付の内容

(1) 貸付金額

ア 認証木材使用住宅（新築、建売）

上限金額 2,000万円

イ 認証木材使用リフォーム

上限金額 900万円

(2) 貸付金利（当初10年固定型金利）

平成21年6月10日時点2.0%

※ 金利は毎月10日に見直しとなり、県のホームページにおいても掲載しておりますが、実際に適用される金利は、資金をお受け取り頂く時の金利となります。

なお、11年目以降は、お取り扱い金融機関の定めにより異なります。

4 取扱金融機関

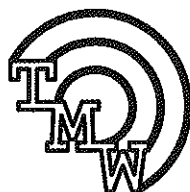
阿波銀行、徳島銀行、四国銀行、徳島信用金庫、阿南信用金庫、四国労働金庫、徳島県信用農業協同組合連合会、徳島県信用漁業協同組合連合会

5 その他

詳細については、県庁林業振興課木材生産流通担当(電話088-621-2448)までお問い合わせください。

認 証 木 材 と は

消費者の皆さんが安心して木材を利用するため、木材の産地や品質を知ることができる「徳島県木材認証制度」により認証された木材です。



徳島県木材認証機構
認証木材のマーク

証明の種類は3つ

1 産地認証

徳島県内の森林で生育し、かつ、合法的に伐採された木材であることを証明すること。

2 品質認証

県内の工場等で製材・加工された合法木材で、品質性能が一定基準であることを証明すること。

3 合法性の証明

合法的に伐採されたことを証明するもの。

※ 当制度における認証木材は「徳島県木材認証制度」のうち、「産地認証」を受けたものとしております。

認 証 木 材 を 利 用 し た マ イ ホ ー ム を 応 援 !

・徳島県林業改良普及協会だより・

徳島県林業研究グループ連絡協議会の通常総会に続きまして、同所において平成21年度第38回通常総会を開催しました。

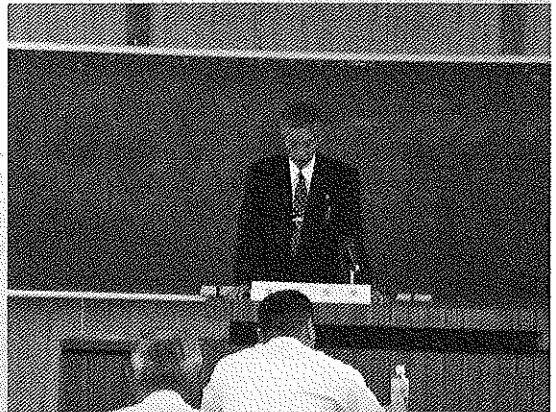
20年度の事業報告、決算報告そして21年度の事業計画、収支予算について、原案通り承認されました。

事業計画において、Uターン森林所有者再チャレンジ支援事業が三カ年事業の最終年度になりますが、引き続き相談窓口を設置しまして、相談にお応えすることとしております。

また、徳島県の新規事業であります「間伐空間高度利用モデル事業」の一部を、県から受託して事業を実施します。

この事業は、列状間伐施業地において山菜・花卉等を林間栽培し、林家所得を確保することを目的としたものです。地域の状況に適した実践法の検討会の開催を当協会が受託します。

(専務理事 船田征二郎)



真鍋会長

徳島県林業研究グループ連絡協議会だより

平成21年度第51回通常総会を5月29日、森林林業研究所において開催しました。

来賓としてご出席いただいた徳島県林業振興課の瀬治山主幹から激励のご挨拶がありました。

20年度の事業報告、決算報告そして21年度の事業計画、収支予算について、原案通り承認されました。

21年度の事業計画において、全林研の助成事業であります林業後継者育成・確保支援事業を要望いたしております。この事業は、地元の小・中・高校生を対象に、地域の森林をフィールドとした林業体験や森林学習を通じた後継者確保活動への支援事業であります。平成21年度から25年度までの5カ年事業となっております。

先般、県内の林研グループに対して事業の説明会を開きましたところ、次の6グループが事業の交付申請を済ませ、7月2日から事業を開始することになりました。

かみやま林業振興会(神山町)

上勝なでしこ愛林会(上勝町)

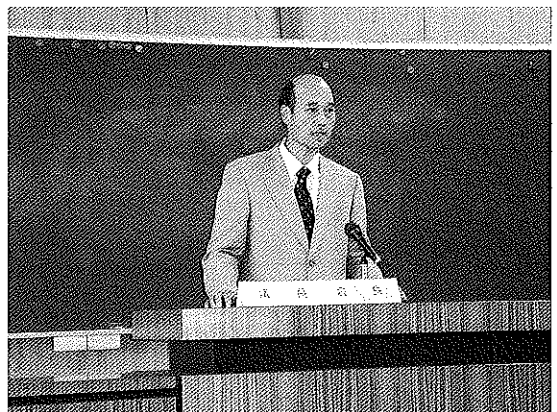
海部郡林業指導者会(海部郡)

穴吹町みどりの会(美馬市穴吹町)

やまびこ森林研究会(三好市池田町)

西井川林業クラブ(三好市井川町)

(常任理事 船田征二郎)



橋本会長

「不思議の国・ニッポン」

最近の変な出来事に一言！

西部総合県民局(美馬)

主査兼係長 豊原 広之



審つ目は、核実験した北朝鮮批難です。いつの間にか「言うことを聞かない悪い国北朝鮮」と「核を持つて良いアメリカ、ロシアなどの核保有国、そしてその他の国々」の図式ができていて、世界の核兵器の現状を伝えたり、核兵器保有反対を主張する国やマスコミは無いようです。

私は、本来人類が核兵器を持つことに反対で、全廃すべきだと思つています。また、日本は唯一の被爆国で、その惨劇を経験してきました。

だから言いたい。例えば拉致問題はあつても、日本は、核を保有するなどの国をも批難し、また安保理において核兵器全廃を強く提言すべきだと、日本が将来核を持たないためにも、

二つ目は、新型インフルエンザです。WHOの発表によると、二〇〇万人が死亡したアジア風邪(致死率〇・四%)以上が予想され、警戒レベルは世界的大流行を示すフェーズ6になりました。毒性は弱いですが、免疫を持たない人が多いため広範囲に広がる恐れがあり、蔓延すれば死者数も増えるそうです。通常の季節インフルエンザでも多いときには一万人以上の死亡者が出るそうなので、

とりあえず気をつける必要があります。

しかし、過去にはダイオキシンや環境ホルモンで大騒ぎして、その後の研究や測定方法の誤りがわかり、実は大したことがなかった例もあることから、冷静に見極めたいものです。

3つめは、高速道路千円乗り放題です。温暖化防止のために、レジ袋の使用はやめるとかアイドリングストップとか呼びかけておいて、景気が悪くなると二年間休日高速道路千円乗り放題にする。結果、CO₂の排出量は増え、ETC利用者は税金で助成される。無節操で無責任ではないか。高速道路の利用者が増えないのはバカ高い道路料金とガソリン代の高騰によるものであつて、一時的に料金を下げても、景気回復には役立ちません。熱心に温暖化対策を提言していた専門家や諸団体そしてキャンペーンまでしていたマスコミからの反対の声は・・・どこからも聞かれない、不思議なことです。

CO₂の排気量を削減するために、今回の不況がビッグチャンスと、思うのですが。

森の掲示板

◎森林・林業関係の主な行事予定
徳島県で今年の秋開催される森林・林業に関する主な行事についてご紹介します。

◎第六十回日本森林学会関西支部 日本森林技術協会関西支部 四国支部連合会合同大会

日本森林学会関西支部と三三三日本森林技術協会関西支部連合会が合同で、講演会や森林・林業に関する最新の試験研究成果の発表会を開催します。

◎特別講演
平成二十一年十月十六日(金)

ホテルクレメント徳島(徳島市)

「四国道路の歴史」

「道路文化」のあゆみをたどって

徳島県立博物館 長谷川賢二(専門学芸員)

◎研究発表会
平成二十一年十月十七日(土)

徳島大学工学部共通講義棟(第三島キャンパス)
森林・林業の研究者や技術者である日本森林学会関西支部会員等が最新の試験研究成果を発表します。

特別講演については、一般の方の聴講も可能です。

詳細についてはお問い合わせください。合同大会事務局 林業振興課 普及調整・森づくり担当 電話 〇八八(六二二)二四五八(六二二)まで、お問い合わせください。

◎四国の森づくりフォーラム10とくしま

「森づくりから始めよう温暖化防止!未来に残そう美しい自然」をテーマに、四国の森づくり実行委員会などが主催し、交流学習会や森づくり活動を実施します。

◎交流学習会
平成二十一年十月三十一日(土)

徳島県郷土文化会館(あわぎんホール)
徳島県出身の写真家で、美しい森づくり全国推進会発起人でもある立木義治氏の基調講演と、「森の現状とNPO活動の取り組み」についてのシンポジウム及び、「森の再生・まちの復活」をテーマとしてパネルディスカッションを行います。

◎森づくり活動
平成二十一年十一月一日(日)

上勝町 高丸山「とくしまの森」とわの森」
四国四県の参加者とともに植樹活動を行います。
詳細につきましては事務局(林業振興課 普及調整・森づくり担当 電話 〇八八(六二二)二四五八(六二二)まで、お問い合わせください。

◎林業振興課 普及調整・森づくり担当 技師 櫻 健徳
電話 〇八八(六二二)二四五八
FAX 〇八八(六二二)二八六一